

編集後記

- ・「特産種苗」の創刊号です。初めての経験で五里霧中の中、執筆・ご助言等いただき誠に有り難う御座いました。
- ・特産農作物については、食生活の変化、食料生産のグローバル化等々から、生産そのものが消滅した作物が存在する等厳しい状況にあります。近年、特産農作物の持つ機能性等が見直され、生産が復活してきた作物もあります。
- ・しかし、元々生産規模が零細であることから種苗需要も極小さく、地域特産農作物としての品種・産地の拡散防止等もあり、特産種苗の生産・供給については、主要農作物の種苗対策とは異なった対応と注意が必要かと思われます。
- ・創刊号では、雑豆を特集しました。
- ・穀実生産としての雑豆生産の太宗を占める北海道については、品種育成、種苗生産・生産振興等一連の体型を、都府県からは群馬県のベニバナインゲンの生産状況を代表して紹介いただきました。
- ・食糧基地、北海道における農業生産の基礎となる、育種から始まる品種・種苗生産供給体系が雑豆を通して理解出来るかと思えます。又、北海道と比べると小規模ながら、地域の特性を生かしながらベニバナインゲンと言う特異的な豆類を地域特産物として振興し定着している姿は、規模的に小さな都府県の雑豆生産の有り様が見えるかと思えます。
- ・関係機関紹介では、北海道の種苗生産の基本を担い、育種家種子を生産・供給・備蓄している中央農試遺伝資源部、その育種家種子を受けて原原種生産を担っているホクレン滝川種苗生産センターを紹介していただきました。あまり表立った部門ではないですが、農業生産の基幹を担う重要な位置付けにあることが理解できるかと思えます。
- ・産地情報では、山形県の紅花生産の状況について、本来の目的である染料作物としての生産に加え、新たな用途としての「花」を含めた地域の取組を紹介いただきました。
- ・研究情報では、農研機構の作物研究所が主催し茨城県下で開催された、「特産作物研究会」の状況をご報告いただきました。
- ・何分、不慣れなことから、創刊号については構成・内容の踏込不足等々、至らない部分が多いかと思えます。次号では「雑穀」の特集を予定し、その後も作物・課題等、切口を替えながら内容の充実を図れればと考えております。
- ・皆様には、特産農作物について生産状況、地域での取組、トピックス等の情報提供、紹介、取り上げてほしい課題等、これからのご支援・ご協力をお願い致します。 (上野)

発行日 平成21年1月1日
発行 財団法人 日本特産農作物種苗協会
〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目4番1号
白亜ビル 3階
TEL 03-3586-0761
FAX 03-3586-5366
URL <http://www.tokusanshubyo.or.jp>
印刷 (株) 丸井工文社